



政府交渉 地域医療を崩壊させるな 大学授業料減免は継続を

1月31日、日本共産党地方議員団、民青同盟滋賀県委員会は、厚生労働省、文部科学省に対して、「地域医療を崩壊させる『再検証』の撤回を求め、地域医療体制の充実を」、「修学支援新制度施行に伴う授業料減免の廃止に関する」要望を提出しました。要望には、日本共産党の節木三千代・松本利寛 黄野瀬明子県議、浅見信夫長浜市議、岡田太貴民主青年同盟滋賀県委員会委員長が参加し、同党の清水忠史衆議院議員、大門実紀史参議院議員が同席しました。



「志賀日赤を守る会」のチラシを示すふしき県議

強引な病院の再編統合は撤回を

厚労省

厚生労働省が、病床削減を目的として、昨年9月、全国の424病院の公立・公的医療機関名を公表し、「再編統合について特に議論が必要」としています。滋賀県では、5つの病院（病院独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院、大津赤十字志賀病院、守山市民病院、東近江市立能登川病院、長浜市立湖北病院）が名指しされている問題で、住民や医療現場、地方自治体の声を置き去りにして、公立・公的病院の再編統合を無理に進めていることに対して抗議をし、撤回を求めました

どの病院も地域になくってはならない！

厚生労働省は、「地域の議論を踏まえる。機械的に統廃合、病床削減するものではない」としながらも、大幅な病床数削減の「地域医療構想」の実現が必要としました。厚労省は「医療機関が競合している」としましたが「競合ではなく協力しあって地域医療が守られている」と反論。志賀日赤病院では「守る会」が結成されたこと、湖北病院は北部地域の医療の拠点であり、「地域になくってはならない病院だ」と住民の声を届けました。

医師を増やし、地域の医療ニーズにこたえる体制を

ふしき県議は命と健康を脅かす一方的な病床削減ではなく、医師・看護師をはじめとした医療・介護体制の担い手を増やし、いつでもどこでも医療や介護が受けられる体制を国の責任で充実するよう強く求めました。

文科省

大学授業料減免の打ち切りは認められない

文部科学省には、修学支援新制度によって、高校卒業後2年を経過した多浪生や、転学・転入生が外れることについて、在学学生は支援がこれまで通り授業料減免が受けられることを確認するとともに、今後入学する学生も対象にするよう強く求めました。

医療的ケアが必要な子どもの通学保障へ 新年度予算見積 保護者支援へ制度化

特別支援学校に通う医療的ケアが必要な子どもの通学保障を求める声が強まる中、滋賀県が新年度から保護者の送迎負担軽減をする新制度をスタートさせる方向ですすめています。県が1月15日に公表した新年度当初予算見積で「医療的ケア児児童生徒の通学に係る保護者支援事業」として見積額は1961万円です。県が各市町に委託し、制度利用は1人当たり年間片道10回が上限となっています。2月2日には、柏木けい子市議とともに、保護者送迎で学校に通う医ケア児の保護者お二人から話をお聞きしました。「友だちのいる学校がこの子を成長させてくれる」「『行ってらっしゃい』と送り出したい」と。本格的な通学保障にするため看護師確保など改善を求めています。（ふしき）

特別支援学校卒業後の活動の場を！

特別支援学校卒業後の活動の場が足りない問題で、2月3日、特別支援学校に通う児童生徒の保護者のみなさんが、県障害福祉課と懇談。私も現状を聞かせていただきました。



「今から作業所づくりをしないと間に合わない」と声が寄せられました。（ふしき）

生活相談会をおこなっています。

毎月 第1,3月曜日 午後3~5時まで

場所：ふしきみちよ事務所 無料・秘密厳守

2020年2月4日 発行：ふしきみちよ事務所
大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334
メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp ふしきみちよ公式ホームページ <http://fusiki.huu.cc/>

ふしき みちよ

検索